

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 自らの個性・能力を磨き、激動する社会の変化に対応できる活力あふれる人材を育成する学校
- 1 主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育み、生徒の希望する進路実現を図る
 - 2 人権意識、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を育む
 - 3 教職員が一体となって教育活動の充実を図り地域から信頼される学校づくり

2 中期的目標

- 1 教育活動の充実を図り、主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育む
 - (1) 授業の充実
 - ア ICT 活用、アクティブ・ラーニングの充実の推進
 - イ 教員間の授業研究による授業改善の推進
 - ウ 論理的な思考を深める機会や意見を述べる機会を設定し、学力の充実を図る
 - エ 一人ひとりの教育的ニーズに対応した支援の充実
 - ※ 学校教育自己診断「論理的に文章をまとめる力を身につけることができる」の肯定的評価を令和６年度には 75%以上にする (R２:72% R３:72%)
 - ※ 学校教育自己診断「授業には意見を述べたり深く考える機会がある」の肯定的評価を令和６年度には 80%を維持する (R２:78% R３:81%)
 - ※ 学校教育自己診断「学習時間を確保するよう努力している」を令和６年度には 70%以上にする (R２:69% R３:68%)
 - (2) 希望する進路の実現を図る
 - ア 「総合的な探究の時間」において SDGs の課題解決に向けた探究活動を行う
 - イ 生徒の多様な進路選択に応えるキャリアガイダンス（進路指導）の充実
 - ウ 進路に関する情報提供の充実
 - エ 資格取得や各種コンクールへの応募などの推進
 - オ 家庭学習の充実（勉学と部活動の両立）
 - カ 英語４技能（特に聞く力、話す力）の充実を図る
 - ※ 国公立大学、有名私立大学（関関同立）の現役進学率を令和６年度に 35%以上にする (H29:36% H30:29% R１:23%)
 - ※ 学校教育自己診断「進路についてのアドバイスをよくしてくれる」の肯定的評価を令和６年度 85%以上を維持する (R２:85% R３:88%)
- 2 豊かな人間性の育成
 - (1) 人権感覚を育成し、他者理解のできる真のリーダーとしての資質を育む
 - ア 情報リテラシーを高め、SNS 等によるいじめやハラスメントを防止する
 - (2) 全ての教育活動において SDGs を意識し、国際感覚を備えた人材の育成を図る
 - (3) 部活動や学校行事の充実を図り、より一層、達成感や充実感を高める
 - ※ 学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的評価を令和６年度には 85%を維持する (R２:88% R３:85%)
 - ※ 学校教育自己診断の「人権について学ぶ機会がある」の令和６年度に肯定的評価 90%を維持する (R１:90% R２:93% R３:89%)
 - ※ 部活動加入率 90%の維持 (R１:90% R２:90% R３:91%) 学校行事への満足度 90%以上を維持する (R１:95% R２:91% R３:97%)
- 3 地域から信頼される学校づくり
 - (1) 部活動等により地域連携活動を推進する
 - (2) 広報活動を充実させ、学校の教育活動をこまめに発信する
 - (3) 業務の精選と学校組織（教員体制、運営方法等）の再構築により、働き方改革を推進する
 - (4) 安全・安心な学校生活が送れるよう危機管理を行う
 - ア 新型コロナ感染防止対策を徹底し、感染防止に努める
 - イ 食物アレルギー事故防止のために組織的に対応する
 - ※ 学校教育自己診断の保護者の情報発信についての満足度の肯定的評価を令和６年度に 90%にする (R１:79% R２:89% R３:90%)
 - ※ 学校教育自己診断の「教員間の相互理解、信頼関係により教育活動が行われている」の肯定的評価を令和６年度に 80%以上にする (R１:64% R２:77%)
 - 学校教育自己診断の「先生たちはお互いによく協力し合っている」の肯定的評価を令和６年度に 85%を維持する (R１:84% R２:86% R３:87%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 授業の充実	(1)授業の充実	ア) ICT 活用、アクティブラーニングを推進し、タブレットの活用機会を増やす イ) 相互の授業見学の機会を設定し、授業改善に努める ウ) 観点別学習評価を意識した学習（パフォーマンス課題や討議、レポートなど）が実践できるよう教科会の充実を図る エ) 思考力、判断力、表現力や学びに向かう姿勢が培われような課題設定を行う	(1) ア) 学校教育自己診断 （生徒）「タブレットが活用されている」70%[65%] 「授業では意見を述べたり深く考える機会がある」80%の維持 [R2:78% R3:81%] イ) 授業見学週間の設定2回[1回] ウ) (教員)「観点別評価の課題設定・検証のための教科会が効果的に運営できている」 R4:60%以上 エ) (生徒)「論理的に考える力が身についた」(R3:72% ⇒R4:72%維持) 「意見を述べたり深く考える機会」現状維持[81%] 「進路や生き方について考える機会」現状維持[90%] (2)教育活動の中で外部評価や外部のコンクール、作品応募、地域連携などを推進する。(2回) 修学・進学に関する必要な学資についての手続きをサポートし、必要であれば、SC 及び SSW との連携も図っていく。	
	(2)希望する進路の実現	様々な教育活動の中で ① 外部評価を得る機会の設定 ② 資格取得の推進 ③ 探究活動の充実 を図り、進路選択のモチベーションを高める。 ④ 経済的理由等で修学困難な生徒に対し、様々な面でサポートする。		
2 豊かな人間性の育成	(1)人権教育の充実	・ワークショップ型や当事者による問いかけなど、人権教育の充実を図る。	(1)ワークショップ形式の研修や当事者との交流など、体験し肌で感じる人権教育の実践 「人権の大切さについて学ぶ機会がある」現状維持[89%]	
	(3)部活動、学校行事の充実	・部活動による人間関係力の育成や生徒自治を充実させ、生徒が主体となって学校行事の運営ができるよう生徒たちを支え、思考力、判断力、実行力など生きる上で必要な力を育む	(3)部活動加入率の維持[90%] 生徒が主体となる行事の運営 「学校行事が楽しい」95%以上の維持[97%]	
3 地域から信頼される学校づくり	(1)地域連携活動の推進	地域の行事に積極的に参加し、日頃の教育活動を発表したり、地域の方々から評価を受け、共に育ちあう機会を作る。	(1)地域参加の機会を推進する ・吹田市のイベント (1回) ・学校間交流 (1回) ・ボランティア活動の推奨 (夏季休業中など)	
	(2)広報活動の充実	学校見学会や HP を通じて、学校の特色を発信する。	(2)学校見学会 (3回) Web を活用した広報活動の実施	
	(3)働き方改革の推進	毎月、時間外勤務の多い職員に月の途中で声掛けを行い、働き方改革を推進する。	(3)時間外労働時間が 80 時間超となる職員の延べ数 20 名以下[17 名]	
	(4)危機管理	情報の共有が適切に図られることを意識して危機管理に取り組む。	(4) いじめ対策委員会、食物アレルギー対応委員会などの危機管理に関する委員会を定期的に開催する	